

所属名	事務事業名	ページ番号
都市政策課	空家等対策事業	2
都市政策課	空き家利活用相談支援事業	3
都市政策課	空き家リフォーム助成事業	4
都市政策課	空家等面的対策事業	5
都市政策課	都市計画マスタープラン策定経費	6

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	空き家等対策事業	事業期間	平成 25 ~ 年度
担当部署・係名	都市政策課 空き家対策室	担当課長名	福田 秀典
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	空き家等の適正な管理を図ることにより、空き家の倒壊並びに空き家等における火災及び犯罪を未然に防止し、もって市民の安全で安心な暮らしの実現及び良好な生活環境の保全に寄与する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ○苦情相談を受けた危険な空き家等について、現地調査及び所有者調査を実施し、所有者（管理者）に適正管理を促す。 ○佐賀市空家等対策協議会（1回/年）の実施。 ○危険な状態等の空き家（25件）に対して60万円を限度に解体費の一部を助成。 ○危険な状態を早期に解消する必要のある空き家（2件）について、緊急安全措置を実施。 ○空き家等情報登録制度の実施。 ○空き家無料相談会（1回/年）の実施。 ○空き家問題講演会（1回/年）の実施。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	11,937	10,915	16,521	25,426	20,592
うち佐賀市の負担額	11,937	10,915	13,059	21,820	17,936

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
苦情対応件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
409	300 369	300 426	300 323	300 356		

成果指標②						単位
空き家解体費助成件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
11	14 12	15 18	15 20	15 25		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	<p>苦情対応件数は前年度よりも増加し、目標値を上回った。</p> <p>空き家解体費助成件数については、予算措置件数以上の申請があり、予算額を全て執行する結果となった。</p> <p>社会情勢として、空き家は益々増加が見込まれることから、危険な空き家の解体だけでなく、危険な状態になる前段階からの対策が必要と思われる。</p>

今後の改善策、対応策等

空き家対策事業においては、危険な空き家の是正措置等だけでなく、空き家の発生防止や有効活用が重要となるため、対策計画に基づき関係部署や業界団体等との連携を図り事業を進めたい。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	空き家利活用相談支援事業	事業期間	令和 6 ~ 年度
担当部署・係名	都市政策課 空き家対策室	担当課長名	福田 秀典
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	空き家等の活用を促進する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	○空き家利活用の専門家による相談支援窓口の設置（R6.7～R7.3） ○空き家の利活用可能性調査（10件）に対して10万円を限度に調査費の一部を助成。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額					2,447
うち佐賀市の負担額					1,386

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
相談窓口利用件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	-	-	-	-	63	

成果指標②						単位
空き家フィージビリティスタディ助成件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	-	-	-	-	10	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和6年度は基準値となるため、令和6年度の実績結果から記載。



今後の改善策、対応策等
情報発信により、相談支援窓口の利用者数及びフィージビリティスタディ助成の申請者数の増加を図る。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	空き家リフォーム助成事業	事業期間	令和 6 ~ 年度
担当部署・係名	都市政策課 空き家対策室	担当課長名	福田 秀典
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	空き家の活用を促進する。				
事業の対象者	市民				
令和6年度 主な活動実績	○空き家を新たに購入し、自らの居住のために行うリフォーム（2件）に対して100万円を限度にリフォーム費の一部を助成。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額					2,000
うち佐賀市の負担額					1,100

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
空家リフォーム助成件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	-	-	-	-	2	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和6年度は基準値となるため、令和6年度の実績結果から記載。



今後の改善策、対応策等
情報発信により、リフォーム助成の申請者数の増加を図る。

令和7年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	空家等面的対策事業	事業期間	令和 6 ~ 年度
担当部署・係名	都市政策課 空き家対策室	担当課長名	福田 秀典
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	空き家等の利活用を促進する。				
事業の対象者	市民、事業者				
令和6年度 主な活動実績	○土地の形状等により単独で売却等の利活用が困難な空き家（5件）に対して60万円を限度に解体費の一部を助成。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額					2,854
うち佐賀市の負担額					2,854

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
空家等面的対策助成件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	-	-	-	-	5	
成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和6年度は基準値となるため、令和6年度の実績結果から記載。



今後の改善策、対応策等
土地の形状等により単独で売却等の利活用が困難な空き家の解消は、権利関係の整理等に時間を要するため、引き続き取り組む必要がある。情報発信により、空家等面的対策助成の申請者数の増加を図る。

令和7年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	都市計画マスタープラン策定経費	事業期間	令和 5 ~ 令和 6 年度
担当部署・係名	都市政策課 都市計画係	担当課長名	福田 秀典
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	計画的な土地利用の推進	
	基本事業	土地の有効利用の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要	人口減少の進展や新型コロナウイルス感染症拡大による社会変容など、本市を取り巻く状況の変化や今後予想される社会・経済構造の変化等に対応し、まちの魅力を高め、賑わいあるまちを創造するとともに持続可能な都市づくりを実現するための本市における土地利用の最上位計画である佐賀市都市計画マスタープランを策定する。				
事業の対象者	市民				
根拠法令等	都市計画法第18条の2				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額				13,065	11,921
うち佐賀市の負担額				13,065	11,921

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
都市計画審議会開催回数					回	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
			1	6		
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>庁内関連部署へのヒアリングを実施したほか、複数分野の専門家や公募委員（市民）などから構成される都市計画審議会で検討を重ねるなど、多角的な視点から都市計画マスタープランを策定し、令和7年3月に公表した。</p>
